

吉野 作造  
(吉野作造記念館提供)

みなさんは、「民本主義」という言葉を聞いたことがありますか。「民本主義」とは、政治は国民の意見に基づいて行われるべきものである、という政治の在り方を表しています。これを唱えたのが、吉野作造です。作造は、自由と平等を大切にするキリスト教の教えや、留学中に見た、よりよい社会を目指そうとするヨーロッパの人々の姿から、一人一人の人間が自分の考えをしっかりと表現し、みんなで支え合いながらよりよい社会をつくっていくことが大切だという思いを強くしていきました。この思いが、「民本主義」という考え方につながっていきます。この考えは、当時の日本全体に広がり、「大正デモクラシー」という大きな運動が起こります。この運動が、だれもが選挙で政治に参加することができる現在の日本の選挙制度の基になっているのです。

作造は、政治学者として働く一方で、困っている人や貧しい人たちを助ける活動も積極的に行っていました。

ある日、作造は、多くの赤ちゃんや母親が、病気になってしまったり亡くなってしまうたりしていることを聞きました。実際に東京市街を歩いてみると、貧しい人たちが住んでいる地域には、親に見放されたたくさんの子供がいました。

当時の日本は、裕福な人とそうではない人の差が大きく、病気を治す薬さえ満足に買えなかったり、子どもが生まれても育てる余裕がなく手放してしまったりする人々がいました。

(この子どもたちは、どうやって生きていくのだろう……。それに、この貧しい大人たちも、幸せな生活ができていない。この人たちのために、何かできないだろうか。)

そう考えた作造は、仲間たちと「賛育会」という組織を立ち上げ、医師と一緒に病院(産婦人科)や、赤ちゃんなどを預かる託児所の運営に力を入れました。その医師の中には作造の教え子や、作造をしたって集まった学生たちがいました。また、作造に協力したいという人たちからの寄附もたくさん集まりました。

こうして始まった賛育会には、毎日のようにたくさんのお母さんが相談に訪れました。

「お金がなくて、赤ちゃんにじゅうぶんな栄養をあげられないんです……。」

「どうやって赤ちゃんを育てたらいいかわからないんです。」

医師たちは、困って訪ねてきた人に、すべて無料で相談に乗りました。賛育会を訪れた人々の多くは、医師たちに感謝の言葉を述べていきました。

「先生たちのおかげで、赤ちゃんを育てることができそうです。本当にありがとうございます。」  
(これで、たくさんの人を救うことができるだろう。)

作造は、困っている人のために、会の運営などの面で精一杯活動しました。

大正十二(一九二三)年九月一日、午前十一時五十八分、関東大震災という大きな地震が、東京の街をおそいました。大きな揺れや建物の倒壊、火事により、十万人以上の死者が出ました。作造の勤めていた

大学も被害を受け、貴重な本や資料が焼けてしまいました。心を痛めた作造でしたが、そのような中でも、まず、困っている人たちの力になりたいという思いから、被災者のために一生懸命活動しました。

震災後、それまでよりも多くの人が病院を訪れるようになりました。作造は、これまで通り病院の運営に力を注ぎました。困っている人たちの笑顔や満足そうな顔を見ると、作造のつかれも吹き飛びました。

しかし、そんな日々が続いていた中で、作造は、あることが気になりました。患者の中には、無料でもらった薬を捨てたり、施設を何ヶ所も渡り歩いたりする人たちがいました。また、寄附をしている人の中には、自分が患者たちに行っている行為に感謝を求める人たちもいました。

「患者さんたちが、無料で治療を受けることで助かっていることは間違いない。だが、これで、この人たちは本当に幸せだといえるのだろうか……。いつまでもただ助けてもらう側、ただ助けてあげる側でよいのだろうか……。」

作造は、自分たちのやっていることが本当に正しいのか、本当にこれがみんなのためになっているのか、とても悩みました。作造は、悩んだ末、寄附金に頼っていた無料の治療を止め、有料にすることで、その利益で病院を運営していけるようにしました。

そして、これまでよりいっそう、患者たちへ、育児や生活をする上で必要な知識を伝えるようにしていきました。妊婦の元へ訪問指導を行っ



本所梅森亭における吉野作造の講話（賛育会所蔵）

たり、地域の人々の要望を聞いたり、日用品を安く売ったりして、地域のために活動しました。また、「平和村」という被災者のための住宅をつくり、そこに住む人たちが自分たちで生活できるように家だけでなく仕事も世話したり、技術を教えたりしました。こうして、その後も作造は、貧しい母親や被災者のために力をつくしていきました。はじめのうちとはとまどっていた人たちでしたが、少しずつ作造の考えが分かってきて、生きる希望もわいてきました。

作造は、このような言葉を残しています。

「私たちが最も心がけるべきことは、今現在、正しいとされることを守り続けることよりも、常により正しいことを追いつめる姿勢をもち続けていくことです。」

作造は、「民本主義」という考え方で日本全体の幸せを願っただけではなく、目の前で困っている一人一人の本当の幸せを目指した人でした。

よりよい社会を追い求めた作造の姿から、現代を生きる私たちも今一度自分や周りのことについて考えてみる必要があるのかもしれない。

#### 吉野 作造

吉野 作造は、明治十一（一八七八）年、現在の大崎市古川に生まれた。政治学者として、人々の幸せのために、「国民のための国民による政治」を目指し、議会を中心とする政治の実現に力をつくした。作造が唱えた「民本主義」は、「大正デモクラシー」という大きな動きにつながり、国民だれもが政治に参加できる現代の政治社会の基礎となっている。